

# たまがわ びと

多摩川流域の水と緑に深く関わっている方から、お話を伺うコーナーです。

## 第1回

井口 文夫さん (川崎河川漁業協同組合 代表理事組合長)



## 多摩川の魚資源を守っていくには 流域の市民の理解と協働が必要

昭和27年に約700名の組合員で発足、現組合員は257名、登戸、高津、中原支部があります。河川の魚資源を守り、コントロールするための規定づくりや、規制、活動を行っております。多摩川138kmのうち、羽田の河口から30kmが川崎河川漁業組合の漁場です。水質改善により河口域ではシジミが増え、市民によるシジミ採りが盛



んになっていますが、乱獲の心配があるので、組合としてシジミ漁参入をめざし都知事の免許を申請しました。

鮎はここ2年1,000万匹以上遡上し、今年も期待できますが、秋には中野島、二子の産卵場となる一帯を、ロープで立ち入り禁止にして守っております。

また川崎市ではマルタ会という会をつくって8年間、マルタウグイを放流し続けてきました。おかげで今はマルタウグイも非常に多く遡上してきます。鯉の滝登りみたいに堰で見事に跳ねたり、船の中に飛び込んだりすることもあります。

他に鯉、鮒、ウグイ、ウナギ等放流していますが、子どもたち、学校、多摩川を好きな多くの市民、関連団体と連携して多摩川を守っていきたく願っています。

繋がる、広がる  
多摩川の輪

Vol.1

## たかつ大山街道1000匹の「あゆ」プロジェクト

「江戸時代、多摩川のあゆは献上品だったので、庶民は大山街道で運ばれた相模川のあゆを頂いた」という伝承を、地域の子供も達に楽しく伝えようと始まった活動です。絵付けのための、あゆのぬいぐるみ作りや、ワークショップを開催することで、カラフルなあゆが繋がって行くように、「まちも人も繋がることが出来ますように!」という願いも込められています。



1000匹の「あゆ」プロジェクト <http://blogs.yahoo.co.jp/takatsu1000ayu>

## 編集後記

総会も終わり、新たなスタッフでの新たな10年のスタートの年となりました。隔月紙ですが、次号には新代表の意気込みを記事にします。会報もNPO法人多摩川エコミュージアムとして、多摩川だけでなく流域の情報や活動を写真を主体にした記事にして、届けたいと思っています。情報、コメントをお寄せください。



### 二ヶ領せせらぎ館

- アクセス  
JR南武線・小田急 登戸駅 徒歩10分  
JR南武線 宿河原駅 徒歩15分  
※駐車場はありませんので、車でのご来場はご遠慮願います。
- 開園時間  
午前10:00～午後4:00  
6月～9月の土・日・祝日 午前10:00～午後5:00
- 休館日  
毎週月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)